



今月は、**家族看護の基本**をお伝えしたいと思います

1. 家族の定義

家族とは、絆を共有し、情緒的な親密さによって互いに結びついた、しかも、家族であると自覚している二人以上の成員からなる集団である。(リードマン)

★医療現場で選ばれる病者の“家族”とは
婚姻や血縁関係にある人々とされることが多い。

《理由》

- ・医療を提供するにあたり、病者の現病歴、既往歴、家族歴、生活歴などを聴取する必要がある。
- ・家族歴は、病者の血縁関係を基に現病歴や既往歴に共通した因子がないかを探る目的がある。
- ・特に遺伝的な因子がないかを探るには、血縁関係を追っていく必要がある。
- ・家族には、病者の治療・療養に関わる責任を担ってもらう必要があり、法的な“家族（親族）”であることが重要になる。

★看護が対象とする“家族”とは

- ・「自分たちは家族なのだ」と、お互いが認識している人々
- ・情緒的な強いつながりにより、相手に何か大変な状況が起こった場合に、共に揺らぎあう関係にある人々

ひとつの家族は、
同時に

健康問題を持つ家族の
一員のケアを行うこと
によって
さまざまな影響を受ける
人々



健康問題を持つ家族の
一員へのケアに大きな力を
発揮するケアの提供者で
ある

★現代の家族の特徴

家族機能の低下

- ①情緒的機能
- ②社会化機能
- ③生殖機能
- ④経済機能
- ⑤ヘルスケア機能

★援助者は、病気の家族員を抱えている家族に何を期待しているだろうか？

- ①病気の家族員の心を支えること
- ②病気の家族員の家族の日常生活の世話
- ③病気の家族員の健康管理
- ④病気の家族員の病気や障害と闘う力を与えること
- ⑤望ましい療養体制を整えること
- ⑥病気の家族員を経済的に支えること
- ⑦病気の家族員とともに療養生活を送ること

2. 家族看護とは

家族をケアの対象として捉え、家族が持てる力を発揮して健康問題に積極的に取り組み、健康的な家族生活が実現できるように、予防的・指示的・治療的な援助を行うことを目指す。

3. 家族看護の意義・必要性

「なぜ、患者を含む家族一単位をケアの対象とするのか？」



患者や療養者の自律や生活の質の向上は、家族全体の安定の中に初めて発揮されるから。

患者と家族は、相互に影響し合う存在。部分（要素）だけを見て働きかけても、家族全体がバランスを失った時に、それはもろくも根底から崩れてしまう。患者と家族が、切っても切れない存在ならば、はじめから、患者を含む家族ひとまとまり（ユニット）で見よう！

《家族看護の出発点》

【事例紹介】60代の患者A氏、妻は40代。面会はあるものの短時間ですぐ帰ってしまう、面会に来る妻は化粧濃く、服も派手。看護師は妻に、近寄りたさを感じている。

⇒何がこの家族に起こっているのだろうか？

この夫婦には、10代の子どもがおり、入院中のA氏に代わって妻が一人で育児を頑張っている。そんな妻を思いやり、A氏は、短時間の面会を希望していた。A氏は、妻がきれいになってくれることが病気に向かう原動力になっており、そのことを理解している妻は、きれいな自分で病院に面会に来ていた。このことから、お互いを思いやり、入院しても家族の日常を大切にしている家族であることがわかる。家族看護のポイントとして、短時間の面会はずいぶんきれいな格好をしてきているのはなぜ？など家族の示すサインを見逃さず、介入の糸口を探ることが大切。

